



数字でみる錦海リハ

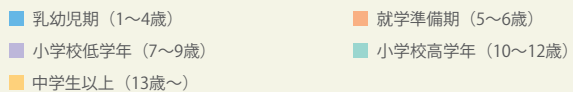
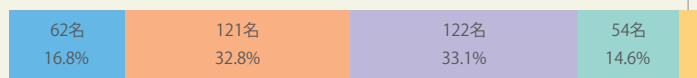
言語聴覚療法に特化した小児外来リハビリテーションに初めて来院された年齢

2019年10月～2026年8月までに369名の新規のご利用がありました。
5歳～9歳（就学準備期～小学校低学年）のお子さんが全体の約3分の2（66%）を占めています。就学前は「ことばの遅れや発音」、就学後は「学校での読み書きやコミュニケーション」など、お子さんの発達段階に応じたご相談が多くなっています。

新規外来患者さんの年齢構成

2019年10月～2026年8月

n=369



専門雑誌・書籍掲載

萩本 慎也（理学療法士）、今田 健（理学療法士・リハビリ技術部長）
重度低栄養を合併した視神経脊髄炎症例に対して栄養療法と運動療法を併用し自宅復帰した一例
介護予防・健康づくり研究、日本介護予防・健康づくり学会 田中喜代次
濱崎 喬之（言語聴覚士）
S.E.N.S.で見つけた、連携のヒント
LDADHD&ASD2026年7月号、特別支援教育士資格認定協会
角田 賢（医師・病院長）
地域のなかの回復期 地域のための回復期
回復期リハビリテーション病棟における退院前カンファレンスのリアル
～実践者が語る大切さと継続工夫～
回復期リハビリテーション病棟協会 機関誌25 第1号（通巻96号）、
回復期リハビリテーション病棟協会
橋本 圭司（医師・副病院長）
ライフステージに沿った高次脳機能障害者支援の実践
回復期リハビリテーション病棟協会 機関誌25 第2号（通巻97号）、
回復期リハビリテーション病棟協会

外部講演

上村 順一（理学療法士）、遠藤 美紀（理学療法士・リハビリ技術部主任）
糖尿病の予防と運動習慣
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.4.16、米子市
上村 順一（理学療法士）、遠藤 美紀（理学療法士・リハビリ技術部主任）
脳卒中と初期症状の理解
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.5.21、米子市
川上 紘司（作業療法士）
新生児学級制度について
北山 朋宏（作業療法士・リハビリ技術部課長）
鳥取県作業療法士連盟設立報告
令和8年度鳥取県作業療法士会総会後研修会、鳥取県作業療法士会主催、2026.5.24、Web
濱崎 喬之（言語聴覚士）
行動の奥にある困り感を見つける視点～「困った子」から「困っている子」へ～
西部保育協議会第1回保育士部会、西部保育協議会主催、2026.6.3、伯耆町
橋本 圭司（医師・副病院長）
教育講演13「神経発達症の評価と支援の実践」
第63回日本リハビリテーション医学会学術集会、
日本リハビリテーション医学会、2026.6.4、福岡県
角田 賢（医師・病院長）
回復期リハビリテーション病棟における身体拘束削減の新展開
一制度と現場が動かす身体拘束最小化への取り組み～
第63回日本リハビリテーション医学会学術集会 合同シンポジウム8、
日本リハビリテーション医学会主催、2026.6.6、福岡県
上村 順一（理学療法士）、遠藤 美紀（理学療法士・リハビリ技術部主任）
高齢者の認知機能
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.6.18、米子市
藤井 春美（看護師・副病院長）
人材管理Ⅰ
人材育成の基礎知識
令和8年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル、
鳥取県看護協会主催、2026.6.19、米子市
川上 紘司（作業療法士）
作業療法生涯教育概論
令和8年度前期現職者共通研修会①、鳥取県作業療法士会主催、2026.6.28、Web
北山 朋宏（作業療法士・リハビリ技術部課長）
職業倫理
令和8年度前期現職者共通研修会②、鳥取県作業療法士会主催、2026.7.11、Web
島山 亮太（言語聴覚士）
失語症と合併しやすい障害について
鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修＜アドバンスコース＞、
鳥取県主催、2026.7.12、米子市
上村 順一（理学療法士）、遠藤 美紀（理学療法士・リハビリ技術部主任）
介護保険のしくみと内容
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.7.16、米子市
角田 賢（医師・病院長）
介護保険事業所が知っておきたい2026年度診療報酬改定の基礎知識
第1回地域リハビリテーションセミナー、
錦海リハビリテーション病院主催、2026.7.23、米子市
橋本 圭司（医師・副病院長）
高次脳機能障害のリハビリテーション
セラピストマネジャーコース16期、
回復期リハビリテーション病棟協会主催、2026.8.17、Web

橋本 圭司（医師・副病院長）
高次脳機能障害と認知症・発達障害の見立てと評価
神経心理学的所見研修会、長崎県作業療法士会主催、2026.8.18、Web
上村 順一（理学療法士）、遠藤 美紀（理学療法士・リハビリ技術部主任）
これまでの内容の復習と実態調査
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.8.20、米子市
佐藤 勝之（言語聴覚士）
難聴は認知症の大きなリスク因子～補聴器装用で始める脳のリハビリ～
第2回地域リハビリテーションセミナー、
錦海リハビリテーション病院主催、2026.8.20、米子市
平野 正樹（作業療法士・リハビリ技術部主任）、川上 紘司（作業療法士）
外出支援について
失語症者向け意思疎通支援者養成講座、山陰言語聴覚士協会主催、2026.8.23、松江市
濱崎 喬之（言語聴覚士）
ことばの発達を促す声掛けの方法
キッズタウンかみことう子育て支援センター8月育児講座、
キッズタウンかみことう子育て支援センター主催、2026.8.25、米子市

島山 亮太（言語聴覚士）
コミュニケーション支援技法Ⅱ
鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修＜アドバンスコース＞、
鳥取県主催、2026.8.30、米子市

橋本 圭司（医師・副病院長）
高次脳機能障害のリハビリテーション
障害者支援施設厚生センター晴室研修、
障害者支援施設厚生センター晴室主催、2026.9.4、松江市

永岡 直充、松原 岳洋、岩田 友（理学療法士）
失語症を呈する対象者の身体介助
令和8年度鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修、
山陰言語聴覚士協会主催、2026.9.6、鳥取市

上村 順一（理学療法士）、遠藤 美紀（理学療法士・リハビリ技術部主任）
人生会議と人生ノート
アクティブシニア健康教室、米子市中央隣保館主催、2026.9.17、米子市

石田 拓海（作業療法士）
『もう運転は無理？』家族の不安と利用者の想いにどう応える？
～客観的な運転評価訓練と制度の活用法～
第3回地域リハビリテーションセミナー、
錦海リハビリテーション病院主催、2026.9.17、米子市

学会発表

松橋 菜実子（言語聴覚士）
入院患者に対する補聴器試聴体験の試みと今後の課題
一院内試聴体験で「集音器で十分」と訴えた2症例からの考察―
第27回日本言語聴覚学会 in 広島、2026.6.26-27、広島県
遠藤 美紀（理学療法士・リハビリ技術部主任）
臨床で行う症例検討会と、担当理学療法士がその検討会の良し悪しを
ブラインドアンケートにて評価する試み
上村 順一（理学療法士）
活動報告：ヘルスリテラシー向上を目的とした地域における健康教室
第39回中国ブロック理学療法士学会、2026.8.29-30、松江市

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたしたちは
回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI NEWS

REHABILITATION
HOSPITAL



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300 [代表]
E-mail：kinkai-hp@kohoen.jp
URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2026
VOL. 24



SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院 開院20周年に寄せて ——地域とともに歩み、 これからの「生きる」を支える

2026年、錦海リハビリテーション病院は、地域の皆様や連携医療機関・関係機関の温かいご支援をいただき、開院20周年の大きな節目を迎えることができました。心より深く感謝申し上げます。

当院は開設以来、「患者さん一人ひとりのその人らしい暮らしを取り戻す」という原点を胸に、多職種が密接に連携するチーム医療を実践してまいりました。病気や受傷により突然生活が一変した方々が、不安の中でリハビリテーションに取り組み、笑顔でご自宅や地域社会へ戻っていく姿は、私たち職員にとって最大の誇りであり、原動力です。



角田賢病院長による講演「これからの錦海リハビリテーション病院 リハビリテーションで、地域と未来を拓く」

高齢化の進展や医療ニーズの多様化に伴い、リハビリテーション医療に求められる役割も大きく広がりを見せています。これからの20年に向け、当院は次の3つの方向性を軸にさらなる進化を目指します。

これからの20年に向けて

第1に、「質の高いリハビリテーション医療の追求」です。蓄積した臨床経験を基盤に、最新の知見やICT・デジタル技術を積極的に取り入れ、科学的根拠に基づいた個別性の高い支援を推進します。さらに、社会復帰において重要な課題となる高次脳機能障害への専門的なサポートにも一層注力してまいります。

第2に、「地域共生・生活期へのシームレスな連携」です。入院中の機能回復にとどまらず、退院後の在宅生活や介護サービスとの橋渡しを強固にし、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる体制を整えます。また、高齢者への支援のみならず、小児から若年者まで幅広い世代を支えるリハビリテーション医療を展開していきます。

第3に、「人が人を支える温かな組織づくり」です。職員一人ひとりが誇りと探究心を持ち、互いを尊重しながら専門性を発揮できる環境を育むことで、患者さんやご家族に寄り添う温もりのある医療を提供し続けます。これまでの20年の歩みを糧に、地域から最も信頼され、必要とされる病院であり続けるよう、職員一同歩みを進めてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

開院20周年 ― 感謝を未来へ、地域とともに新たな一歩



記念式典での廣江晃理事長による主催者代表挨拶

記念式典 | 地域とともに歩んだ20年

2026年9月26日（土）、錦海リハビリテーション病院は、ANAクラウンプラザホテル米子において、開院20周年記念式典・祝賀会を開催しました。記念式典には87名、祝賀会には112名が出席。行政や医療・リハビリテーション関係団体、地域の医療機関など、これまで当院を支えてくださった皆様と、節目の一日をともに迎えることができました。開院当初から当院を知る方々、日頃から連携する関係者、そして職員が顔を合わせ、20年の歩みを共有する貴重な機会となりました。

記念式典は、社会福祉法人こうほうえんの廣江晃理事長による主催者代表挨拶で幕を開けました。続いて、米子市長の伊木隆司様、鳥取県西部総合事務所長の荒田すみ子様、鳥取県西部医師会長の藤瀬雅史様から温かいご祝辞を賜りました。ご来賓の紹介や祝文・祝電の披露を通じ、地域をはじめ、多くの方々とのつながりに支えられてきた20年を改めて実感する時間となりました。



井後雅之 前病院長・名誉院長による記念講演

功労者4名へ感謝状の贈呈
写真左：前副病院長・看護部長
山崎昭子様／写真右：角田賢病院長

記念講演・感謝状贈呈

記念講演では、初代院長・名誉院長の井後雅之が開院から今日までの歩みを振り返り、続いて角田賢病院長が、これから当院が地域で果たしていく役割について語りました。「これまで」から「これから」へ。二つの講演を通して、受け継いできた思いを確かめるとともに、新たな時代に向けた当院の歩みを考える機会となりました。

式典の締めくくりには、当院の発展に尽力し、その礎を築かれた山崎昭子様、宇山幸子様、吉村繁子様、有田千寿子様の4名に、角田病院長から感謝状を贈呈しました。お一人おひとりへの贈呈に会場から拍手が送られ、今日の当院が多くのの方々の努力によって築かれてきたことを、改めて感じるひとときとなりました。

祝賀会 | 再会と感謝、これからの歩み

夕刻からは祝賀会へ。こうほうえんの廣江研会長の挨拶に続き、医療法人真正会 霞ヶ関南病院理事長で、日本リハビリテーション病院・施設協会会長の斉藤正身様、一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院理事長で、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）代表理事の栗原正紀様からご祝辞をいただきました。

山陰労災病院の萩野浩病院長による乾杯のご発声の後、懐かしい再会や新たな交流の輪が広がりました。歓談の合間には開院20周年記念動画を上映し、皆様とともに当院の歩みを振り返りました。

映像を通じて懐かしい場面に触れ、それぞれの思い出がよみがえるひととき



記念祝賀会での廣江研会長による挨拶



医療法人真正会 霞ヶ関南病院理事長・日本リハビリテーション病院・施設協会会長 斉藤正身先生からの祝辞



一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院理事長・日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）代表理事 栗原正紀先生からの祝辞

会の結び
角田賢病院長からの感謝の言葉リハビリテーション技術部の紹介
小児リハビリテーション担当 言語聴覚士のお仕事

言語聴覚士（ST）を知っていますか？

言語聴覚士（ST）は失語症・構音障害などのコミュニケーション障害や高次脳機能障害、摂食嚥下障害のある方を支援するリハビリテーションの専門職です。当院には、小児領域を専門とする言語聴覚士が4名在籍し、言語聴覚療法に特化した小児外来リハビリテーションを提供しています。

こんなお悩みはありませんか？

当院では就学前後のお子さんを対象に、発達段階に合わせたリハビリテーションを提供しています。例えば…

- なかなかことばが出てこない、うまくお話ができない
 - うまく発音できない音がある、はっきりとお話することができない
 - 言いはじめのことばを繰り返したり、詰まったりしてしまう
 - 文字を読んだり書いたりすることや、文章を読み解くことが難しい
- お子さんのことばや発達のことと気になることがございましたら、お気軽にご相談ください。



言語聴覚療法に特化した小児外来リハビリテーションの様子

TOPICS
01 地域リハビリテーション
セミナーを開催
～ともに学び、地域の暮らしを支える～

当院では、地域の医療・介護・福祉関係者との連携を深め、地域で暮らす方々の生活を支えるため、今年7月から全12回の「地域リハビリテーションセミナー」を毎月開催しています。

ケアマネジャーや地域包括支援センター職員などを対象に、当院の医師やリハビリテーション専門職が講師を務め、日々の支援に役立つ知識や実践的な視点を共有しています。これまでに、診療報酬改定と介護との関わり、難聴と認知症、自動車運転の評価・支援など、幅広いテーマを取り上げてきました。今後も地域のニーズに応じたテーマで開催します。本セミナーを通じて、専門職同士がともに学び、顔の見える関係を育みながら、退院後も安心して自分らしく暮らせる地域づくりにつなげてまいります。

※開催内容や今後の予定について、詳しくは当院WEBサイトをご覧ください。



第3回地域リハビリテーションセミナーの講師 石田拓海 作業療法士

どんなリハビリテーションをしているの？

当院では、お子さんと療法士が1対1で行う個別のリハビリテーションを実施しています。遊びを通じてお子さんのことばを促したり、学習の基礎となる力を養ったりしています。また、保護者の方にはリハビリテーションに同席いただき、遊びの様子を見たり参加してもらい、お子さんの成長と一緒に確認しています。また、園や学校など集団の場の様子もうかがいながら、必要に応じて関連機関との情報共有も行っています。

地域での暮らしを支える
「キッズタウンからふる」との連携

個別訓練だけではカバーしきれない成長をサポートするため、当院では同法人の児童発達支援事業所「キッズタウンからふる」へ言語聴覚士を派遣しています。「キッズタウンからふる」では、小集団の中でお友達との関わりや日常の身の回りのことの自立に向けた支援もあわせて行っています。

TOPICS
02 被災地の暮らしを支える
リハビリテーション
― 令和8年熊本地震における
災害リハビリテーション支援活動 ―

令和8年熊本地震を受け、当院の北山朋宏課長（作業療法士）が鳥取JRATの一員として、8月24日から28日まで熊本県八代市で災害リハビリテーション支援活動に従事しました。現地では、避難生活に伴う身体機能や生活能力の低下を防ぎ、被災された方々の安全な暮らしを支えるため、関係職種と連携しながら支援活動に取り組みました。

9月1日には院内派遣活動報告会を開催し、約50名の職員が参加。現地の状況や活動内容、支援を通じて見えてきた課題を共有し、災害時に求められる多職種連携の重要性について理解を深めました。今回の経験を当院が培ってきたリハビリテーションの専門性と結びつけ、今後も関係機関との連携を深めながら、災害時に必要な支援を届けられるよう備えてまいります。



院内派遣活動報告会 約50名の職員が参加し、現地での活動や課題を共有。